

其餘ヲバ汁ト云ハズ吸物ト稱スルニ至レリ

〔伊呂波字類抄禮疊字〕料理

〔下學集下態〕料理

〔易林本節用集言辭〕料理

〔庭訓往來〕配膳勸盃料理。庖丁或盛物已下故實職者一兩輩可令雇給者也。

〔庭訓抄下〕料理ハ魚類精進共ニ味ヒシタツル者是也。

〔倭訓栞前編四十〕れうり 割烹を料理といへる事、類聚國史に内膳に料理といひ、高橋氏の文にも見えたれば、いと古き事なるべし、居家必用にも菑蕪を製する事を料理と書り、太平記に、本院

第二の御子を南朝へ取奉らんとせられけるが、とかく料理に滞りて京都に捨置奉りけると書

るは本義によれり。

〔居家必用九種菜〕種菑蕪略 料理法、右於箆筐中摺自凝、確中擣亦成片段、即於礮灰汁中煮十數

沸、以水淘洗、換水更煮五六遍、即切作瓣片段、於五味汁中淹、兼少阿魏酥尤妙、作瓣及湯臍、隨人所

好、加少酥乳最佳。

〔貞丈雜記六飲食〕一料理の二字は、はかりおさむるとよみて、食物を調ふる事ばかりに限らず、何事

にても取りはからひ調ふることを云也、食物を調ふるを料理すと云も右の心也、本は食物を調

る事をば、庖丁するとも、調味するとも云也。

〔玉勝間十四〕饌

饌をつくりと、のふるを、俗に料理といひ、それよりうつりて、そのつくりと、のへたる饌をさ

しても料理といひ、御料理を下さる結構なる料理などいふみな饌をいへり。

〔增補俚言集禮〕料理 困學紀聞、料理出王徽之傳、愚案此は料理の文字の出處を云、此方の俗の厨